

近隣の自然の変化に目を向ける No. 44

「われら春の兄弟花：違っていても仲良し

Sibling flowers, different but friendly

2021年4月17日

春の花々が驚くことに例年よりも2,3週間早く、しかも爆発的に咲いている。その中で、兄弟というかペアと言える花に出会える。分類的に科、属が同じで色や形が同じならば兄弟と言えるが、中には異なる科の花がある。そこで今回は、見た目でも兄弟と思える花に注目してみた。

一輪草と二輪草は、葉の形と花の形が異なり、学名の前半が同じことから兄弟と言える。同様に色違いのツツジ、スミレも。ハナミズキは色が違うだけの一卵性姉妹のようだ。ドッグウッドという別名で広くアメリカ人に愛されている。アメリカに桜を贈った返礼として贈られ日本に広がったと言う。

山吹には桜のように一重と八重がある。山吹に因む古来有名な和歌と逸話をご存知でしょうか。「七重八重花は咲けども 山吹の実の一つだに 無きぞ悲しき」。江戸城を築城したことで知られる太田道灌は、鷹狩の最中に雨に遭い、蓑を借りようと粗末な小屋の娘を訪ねたが、黙って山吹の花枝を差し出された。道灌はその真意が分からず怒って立ち去ったが、昔の和歌に真意がある事が分かって無知を恥じ、和歌を学んだ、と言う。では、山吹は本当に実がならないのか？実は、ならないのは八重だけで、一重の山吹は実をつける（黒い実を見たことがある）。

ここで別の驚き：白山吹は、花や葉が山吹に似ているため命名されているが、実は別属の植物である、と言う。兄弟ではなく、顔と性格がよく似た他人というワケだ。

タンポポの英語名 dandelion は“ライオンの歯”の意味で花の形に由来する。タンポポには、よく見かける外来種と日本固有種が存在する。遺伝形質が全く異なる。見た目の違いは、花の付け根の苞片(ガク)が反り返っているのが外来種で、在来種はガクが上向きに重なっている。なお、在来種は、東北地方南部と四国東部に多く見られる、と言う。

イカリソウの名が船の碇の形に由来することは、見てすぐ分かるが、その美しさは、白鷺が羽根を広げて大空を舞う姿を思わせる。ピンクの縁取りをもつ鳥はフラミンゴか？

野草のムラサキケマンと派手なケマンソウが兄弟であると言われて、直ちに納得できるか？実は全く別の花。両方とも花の形がケマン（華鬘＝仏前に飾る花輪類）似ているためだが、異なる花輪に由来する。ケマンソウの名はハート形の花輪に由来し、別名の鯛釣り草はズバリ大漁の鯛を連想させるからだ。